

ガザ

瓦礫と弾痕の中で

8月26日の停戦から半年。ガザでは復興どころか瓦礫の撤去すら進んでいません。復興資金が集まらない上に、封鎖のため建築資材が手に入らず、10万人がいまも学校、知人宅、モスクなどでの避難生活を余儀なくされています。毎週のように市民の抗議デモが起き、国連の施設前でも座り込みが続いています。大人も子どもも閉塞感とストレスを抱えながら、例年になく荒れ模様の冬を耐え忍んできました。先行きに希望を見出せない人々がガザから脱出しようとして発砲されたり捕まったり、これまでなかった若者の自殺事件も多く報じられるようになりました。当会では緊急支援活動を今年も継続します。



シジャイヤ地区。壁一面の弾痕。部屋の中は焼け焦げ、1階には戦車が突っ込んで大きな穴が開いている



崩れ落ちそうな建物にも人々は戻っている



表情を変えない子どもたち
父親は「子ども達は、人を怖がるようになってしまった」と話す

破壊された家で暮らす

イスラエル軍による空爆と地上侵攻の両方を受け被害が非常に大きいガザ東部のシジャイヤ地区。瓦礫の山のなか、住民は廃墟に戻りあちこちで砂埃をあげながら手作業で瓦礫を撤去しているが、あまりにも被害が大きく見通しは立っていない。

半壊した家に戻った家族は、崩れかけた家で比較的被害が少ない部屋の穴をシートや毛布で塞ぎ、なんとか雨風をしのいでいるものの、ガザでは冬が雨季のためとても耐えられる状況ではない。「死ぬほど寒いですが、私たちにはこの場所しかありません。ここにいるしかないのです。」

支援をしながら多くの家族を訪問させていただいている。2009年の侵攻で家を破壊され9歳の息子を殺された一家は、建て直した家も今回の侵攻で壊されたため、木枠にビニールを貼っただけのテント暮らしをしていた。3年前に生まれた子どもに死んだ息子と同じ名前をつけたが、その男の子は銃を撃つ真似をして親を当惑させていた。どの家族のお話も大変辛く、返す言葉がない。

家屋の再建は全く進んでいない。建築資材を手に入れるためには、自治政府や国連による紛争被害認定を受けたあと、破壊した当事者であるイスラエル政府の許可を取らなければならないという不条理なシステムになっている。そのイスラエル政府は軍事目的への転用を防ぐという理由からセメントや鉄筋などのガザへの搬入制限を解除していない。封鎖が復興を妨げている。

シジャイヤでの支援

学校、病院、モスクなどあらゆる建物が破壊され、多くの幼稚園も壊された。250人の園児が通うシジャイヤのバッシール幼稚園は二棟のうち一棟が全壊、一棟が半壊状態。おもちゃ、家具、パソコンなど設備のほとんどが使えなくなったため、この幼稚園の再開支援も開始している。

残った園舎も北側は壁がほとんど崩れたため、子どもたちが転落しないようにネットを貼り、その上をキャラクター柄のシートで覆ってあった。安全確保はもちろん、破壊や瓦礫が広がる外の景色をなるべく見せず、幼稚園にいる間は戦争を思い出さずに楽しく過ごしてほしいとの思いからだ。

被害が大きい北部ベイトラヒヤのバアレムビサン幼稚園にも地元の青年たちを派遣して、思いきり遊べるリクリエーションプログラムを提供している。バアレムビサン幼稚園には、近くにあったトゥフラティ幼稚園の園児も通園している。トゥフラティ幼稚園は完全に破壊されてしまい100人の園児が行き場を失ったからだ。

「戦争後、子どもたちが暴力的になるといった影響が見られました。現在では子どもたちもだいぶ落ち着いてきていて、プログラムの効果が出てきています。」先生たちが話してくれた。

シジャイヤやベイトラヒヤで人々の話を聞いていると、甚大な被害であるにもかかわらず支援をほとんど受け取っていない人たちが多いことに気づかされる。

緊急事態はまだ続いている。



子どもたちは戦争のことをよく覚えている



壁のように見えるのは破壊されたところにシートを張っているだけ



3階は使えないため1階と2階でなんとか幼稚園を続けている



バッシール幼稚園の子どもたち

皆様のご協力で、ガザへの支援を続けています!

冬着配布



戦争により家財の一切を失った人も多く、冬服がない子どもたちも大勢います。少しでも暖かくとジャンパーとセーターのセットをシジャイヤなどで500人の子どもたちに配布しました。



町の商店に来てもらい、きちんと試着をして体に合ったサイズのを渡します。子どもたちは自分の好きな色やデザインを選べたので大喜び。ガザ経済の活性化に貢献するため、物資はガザ内調達をしています。

給食提供



この冬、アトファルナろう学校で約270人の生徒に毎日給食を提供しました。



家で十分にご飯を食べることができていない子どもたちも多く、栄養状態が改善されるだけでなく、勉強にも集中できるようになりました。

健康診断



劣悪な生活環境で暮らす子どもたちの健康状態が心配されるため、1000人の子どもたちに身体測定、外耳検査、視力検査、問診などの健康診断を行いました。



その結果、12%の子どもたちに視力や呼吸器の異常、風邪、栄養不良、膀胱炎、耳垢などが見つかり、保護者へのアドバイスと専門機関への紹介を実施しました。

子ども支援



アトファルナろう学校、ナワール児童館での子ども支援も継続しています。遊園地への遠足では大はしゃぎでした。子どもたちはだいぶ落ち着きを取り戻し、笑顔が続くようになりました。



被害の大きかったシジャイヤ地区とベイトラヒヤ地区の幼稚園での活動を開始しています。リクリエーション、歌、ゲームなどの多様なプログラムで子どもたちは思いきりエネルギーを発散しています。

農家支援



配布されたトマトの苗の作付を始める農家



破壊されたビニールハウス

ガザでは軍事侵攻によって3450ヘクタールの農地、202の井戸、55の給水塔、325の貯水池などが破壊されました。また畑に行けなかったために枯れた作物や、死んだ家畜の損失も併せると農家が受けた被害は甚大で、19400戸の農家が生産活動に復帰できないままです。

負傷した子どもへの 訪問支援を始めます

シジャイヤ地区では侵攻により数百人の子どもが負傷しました。応急手当は受けたものの、その後の医療支援を受けられずにいるため、傷が悪化したり、障がいが残ったりしている子どもが多いので、4月から医療チームによる訪問支援を開始します。



今季最初のキュウリの収穫

雨期である冬の作付時期を逃すと、夏までの収穫が得られません。被災農家の農業再開を支援するために、消費量の多いトマトやキュウリの苗、肥料などを12月から140戸の農家に配布しています。既に収穫ができた農家も出て、ガザの食糧事情に貢献ができました。